

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690100231		
法人名	特定非営利活動法人 リアルリンク京都		
事業所名	柏野の郷グループホーム (さくら)		
所在地	〒603-8312 京都市北区紫野中柏野町22番地		
自己評価作成日	平成31年3月10日	評価結果市町村受理日	令和元年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovCd=2690100231-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovCd=2690100231-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1 「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成31年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者が思い思いに生活して頂けるよう、職員と利用者との垣根がない環境作りに努めています。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣の説明会や町内会での説明をする中で理解を示して下さる方々に支えられ平成30年3月31日に内覧会を行い4月1日から入居が始まり一年で満床になっています。開設時から地域との関係も良好で地藏盆や区民運動会への参加や小学4年生との交流で認知症理解への第一歩や小学校との連携で花見ができています。アセスメントの作成やサービス担当者会議の開催、介護計画の作成、介護計画に沿ったケース記録や申し送りノートで情報の共有、毎月のユニット会議で全員分のモニタリングや、3ヶ月毎に介護計画を見直し再アセスメントを行うなどの一連の流れをしっかりと取り組まれています。職員は利用者2人ずつを担当し入居者の馴染みの関係や意向の把握により、利用者をよく知る取り組みと計画に沿ったケアの実践につなげられるように努めています。利用者は地元の方が7~8割で馴染みの北野天満宮やわら天神にお参りに行っています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に踏まえ、柏野の郷グループホームとしての理念を職員全体で話し合い、総合的に決めている。またホーム内において明記されている。	法人の理念を「やってみよう ひととまちが動き出す」「つなげよう ひととまちを明るい未来へ」「たのしもう ひととまちにありがとう」を福祉部門標語として福祉部門の理念を作成しパンフレットや事業計画に記載している。事業計画をリビングのフロアに掲示し、利用者家族や来訪者、職員に知ってもらっている。	開所後2年目に入り、職員も利用者も定着してきたなかで、グループホームの目指すべき理念を掲げられては如何か、またユニットごとに取り組むべき目標などを定めることも考えられる、など、職員の中での検討を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の地蔵盆への参加や、同町内会で開催された盆踊り・運動会の参加を通して地域との関りを持っている。また、運営推進会議において柏野の郷グループホーム内の活動内容を写真にまとめ、配布を行っている。	町内会に入り、事業所のパンフレットを回覧で回してもらい事業所に必要な行事をコピーで貰い参加をしている。内覧会は案内の回覧やポスターを掲示板に張らしてもらい、大勢の方の参加を得ている。小学生の校外学習での交流や校庭で利用者が花見をさせてもらう関係作りが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生を対象とし、校外授業の一環として認知症の人の理解や生活を学んでもらうことをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	都度要綱を定め、家族、利用者、自治会長や地域包括支援センター職員等々が出席となり、2か月に1回開催され議事録が残されている。自治会との連携による活動の提案や施設全体の運営状況に関する質問等、活発的に意見交換されており、取り決めたことへの対応をしている。	会議は小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催し、利用者の様子や活動内容を写真で説明している。ヒヤリハットや事故報告書を資料として添付し事業所の様子を知ってもらっている。会議では1年目でもあり家族の不安な声が出ているが、丁寧に説明をし話し合われている。また、前回からの検討事項に改善点も含めて答えている。	市の担当課に会議に出席してもらえようように会議の議事録を持っていき説明をするなど、事業所の実績や取り組みを知ってもらい、協力関係を築いていかれることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	京都市や北区などの福祉介護課との連携はある。事業所としての協力意思はあるが、市や区との積極的な取り組みは現在ない。	介護ケア推進課とは書類や手続きで行き来はあるが、積極的な関係作りは今後の課題としている。行政主催の事業所連絡会は小規模多機能のケアマネジャーが出席している。会議の議事録は郵送している。	行政との協力関係の構築や事業所のことを知ってもらうためにも、事業所連絡会への管理者の出席など積極的な働きかけが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに関して代表者および全職員が知識を共有しているが、玄関ドア、ユニットごとの玄関、勝手口、非常口等の出入り口に関して、いずれも施錠されている。	身体拘束の研修を年度内に2回目を行う予定である。玄関の施錠はしていないが、ユニットの玄関の施錠をしている。今後は身体拘束をしないケアについて、職員で話し合っていく方向で考えている。	

京都府 柏野の郷 グループホーム (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基づき、職員に対しての指導を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者による内部研修を行い、知識の共有に努め制度の理解の場となっている。また、成年後見人制度を利用されている利用者に関しては、本人や後見人と話し合いを持てる場を都度設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前より、十分な時間をかけて説明を行っている。契約締結時にも丁寧に説明を行い、家族からの不安や疑問点にも納得して安心に繋がるように行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月お便りとして日々の利用者の様子や写真を家族様に送付している。意見や要望に関しては、面会時やサービス計画書作成時に尋ね、それらを反映できるように努めている。	運営推進会議の出席時や面会時、サービス担当者会議で意見を聞いている。意見箱に通入っていた意見は、エレベーターの温度についての意見で、すぐに改善に結びつけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見を提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送り時や月に一回開催するユニット会議において、職員から意見や要望を聴衆し、それらを反映できるように努めている。	ユニット会議や申し送り時に意見を聞いたり、申し送りノートに職員の運営に関する提案などの記入はある。職員の意見は勤務体制の見直しや喫煙希望には来年度から場所の設置により応えていく方向である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与の査定制や、リフレッシュ休暇として有休消化に取り組んでいる。また、研修の機会を設け、やりがいや楽しみの再発見に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量に沿って研修の場の提供を行っている。またキャリアアップ研修への参加も実施している。		

京都府 柏野の郷 グループホーム (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加によって、同業者との交流の図っており、また実際の現場においてのサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時にユニットの計画作成者も同行し、自宅での生活状況把握や本人の生活歴を詳しく知ることによって顔なじみの関係の構築が出来るように努めている。入居当日も今後の生活に関して安心して頂けるように十分に説明を行っており、日々の生活においても会話時やプラン作成時に本人の要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の段階よりユニットの計画作成者が同行し、家族との関係性の構築を図っている。また入居当日においても計画作成者が出勤し、十分な説明をもとに安心して入居して頂いている。家族の意見や要望に沿ったケアプランの立案に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートの活用や本人・家族の真意を確認できるように努めている。また担当ケアマネ、病棟看護師、主治医等から情報や意見をもとに、必要なサービスの見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事や月に数度の食事レクリエーションの際に、一人一人が出来ることを見極め、職員と共に行うようにしている。また利用者間の信頼関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等で近況報告都度行い、また毎月写真付きのお便りを送付している。家族の意向を確認しながら共にケアの在り方を考え決めるようにし、家族としての役割を担って頂けないか、確認の上外出や催事への参加の支援等ケアプランに反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の馴染みの方でも繋がりがあった方の面会を受け入れている。	近所の方や仕事関係の方が訪ねて来られた時は家族に了解を得たうえで会ってもらい、居室に案内し、お茶を出して続けてきてもらえるように働きかけている。馴染みの場所である北野天満宮などに散策しお参りをしている。	

京都府 柏野の郷 グループホーム (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の生活歴や性格、意向を確認し他利用者との相性等を考慮し、関係性の構築が出来るように座席の配慮を行ったり、共に家事やレクリエーションに参加できるように環境の整備をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時にも、困りごとがあれば連絡して頂けるように伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン見直し時に必ず本人に意向の確認を行っている。フェイスシートにて利用者の思いや希望を把握できるようにし、また職員間での共有に努めている。	フェイスシート、アセスメントシートでこれまでの生活の姿や意向を把握し、生活の中で把握した利用者の意向は申し送りノートやケース記録に記入し共有している。職員は利用者2人の担当でより意向の把握ができるようにしている。把握の困難な方は表情や家族に聞き本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に基本情報シートを作成し、生活歴や習慣、生活環境、好みを把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の生活習慣等の把握をアセスメントシートを用い、職員間で共有している。また、毎月のモニタリングを実施し都度現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議への参加を呼び掛けている。参加にできない場合においても、意向を確認し反映できるように努め、介護計画を作成している。	医療情報やこれまでのケアマネジャーの情報を含めたアセスメントシートをもとに家族・本人の入るサービス担当者会議を開催し介護計画を作成している。日々の記録はケース記録に記入し、担当職員がまとめた記録をもとにモニタリングは毎月ユニット会議で行い記入している。3ヶ月毎にモニタリングのまとめをしてサービス担当者会議で介護計画の見直しと再アセスメントを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアの実施内容や状態の変化、気づきやケアの工夫を記録している。職員は情報共有の為、出勤時に記録の確認を行うとともに、申し送りノートを作成し、情報の漏れが無いように努めている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年末年始の外泊に合わせた外出支援や、地域のイベントに参加等、柔軟に支援ができる環境の整備に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会との連携を深め、地域のイベントへの参加や取り組み内容への周知に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の意向を確認し、各々にあった医療サービスを受けられている。定期的な訪問診療と必要に応じた受診を円滑に行えるように、関係性を構築している。	入居前の主治医の診察を受ける時は家族が同行するので、利用者の様子を紙面で知らせている。提携医の往診を2週間ごとに受診し結果は家族に知らせている。歯科医や、口腔ケアの往診もある。看護師は朝夕の見回りと24時間オンコールで相談ができ、緊急時は救急搬送をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模の看護師に利用者の状態の変化等適宜報告を行うとともに、専門的知見を得られるように都度関係性の構築に努めている。必要に応じて、受診が行えるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中においても、定期的に状態の確認に努め、病院関係者及び家族との連携を密にとる様になっている。また本人の状態を確認するため、直接病院に赴くとともに、病院関係者との関係の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針に関して、契約時または状況に応じて都度意向の確認を行い、同意を得ているが、書面上では行っていない。	ターミナルケアに関する指針は作成されていないので今後の課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応に関して都度ユニット会議等において確認と共有を行い、対応に苦慮が生じた場合にはユニットの責任者や管理者に指示を仰ぐようにしている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災の避難訓練は、消防署立ち合いのもと利用者と共にしている。また防災マニュアルを作成し、全職員での共有に努めている。	災害対策マニュアルを作成し、消防署の立会いのもと昼間想定での避難訓練をしている。他に、独自での訓練も行っている。訓練については運営推進会議と自治会長には話す、近隣には知らせていない。	夜間想定での訓練を近隣にも知らせて取り組まれることを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや、接遇の方法に関してはユニット会議や適宜話し合いの場を設け、定期的に見直す機会を作っている。	目上の方なので丁寧な呼び方に気を付けニックネームは使わないようにしている。居室に入るときはノックをしたり、トイレ介助の仕方も小さな声で声掛けをしている。日々の生活の中で利用者のことに気づいた時は名前がわからないようにしたり、申し送り時の言葉に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に自己決定や物事の選択が行えるように、一人一人あった工夫や言葉かけをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の意思や生活歴を基にしながらかケアを行うように努めている。またどのように過ごしていきたいか一緒に考え、なるべくそれらに沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪形の自己決定や、好みの装飾品を身に付けていただけるように、その人らしさが表れるような支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みの食事をなるべく反映させた食事レクリエーションを展開し、食の楽しみを継続的に持たせられるようにしている。また、食事の準備や片付けを一緒に行い、役割ややりがいに繋がる様に支援している。	献立は給食業者が作成し副食と汁物が運ばれてくるので、ご飯を炊きおかずを温めて提供している。月2~3回の食事レクリエーションで利用者それぞれのできることを一緒に行い、おやつや昼食を作っている。外食は行事の計画書を出して行うが、今のところはコーヒーを飲みにお茶にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態や食事量で提供し、食事量・水分量を確認している。また出来る限り自身の力で食べて頂けるように食事形態や自助具を工夫している。		

京都府 柏野の郷 グループホーム (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアを行っている。また希望者には訪問歯科による口腔ケアを受けて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンを把握し、出来る限りトイレで排泄し、不快感の軽減と清潔の保持に努めている。	排泄時のチェックで個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。布パンツや紙パンツ利用の方も自分でいき、トイレでの排泄を基本としている。寝たきりの人も2人介助で便器に座っている。夜間は紙おむつの方や今までの習慣、体調の悪い方はポータブルトイレを使っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談を行いながら、下剤の調整だけでなく、水分量や運動量も考慮し、適切な排便コントロールができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望に即した時間や日程を考慮し、また可能な限り同性介助基本として、入浴の楽しみを持っていただいている。	週2~3回午前・午後の好みの時間に入浴をしている。浴槽は三方向から介助ができるようになっている。1対1介助で入浴をしているがゆっくりと一人で入る時間も大切に少し離れて見守っている方もいる。お湯は1回ずつ入れ替え気持ちよく入れるようにしている。しょうぶ湯やゆず湯で楽しんでいる。好みのシャンプーを使っている方もいる。入浴拒否の方は時間、人を変えたり、日をかえて入れている。家族に声をかけて貰い入れている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安心して眠れるよう、室温調整や乾燥対策、照明調整等、本人の好みの把握をし、室内環境を整えている。また前夜の睡眠状況に応じて日中でも休息を得られるよう時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を常に確認できるようにしている。また服薬内容が変更した際でも周知の徹底や、状態の変化を記録に残すようにしている。また主治医への報告をこまめに行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の把握し参考の上、張り合いや楽しみに繋がることを一緒に見つけていくようにし、日々の生活の中に取り組めるように模索している。また希望者には喫煙や飲酒等を楽しめる環境の配備に努め、なるべく希望に添えるようにしている。		



京都府 柏野の郷 グループホーム (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等、日々の生活の中で出来る限り意向を反映させている。また希望に沿って家族と外出においても、出来る限り支援している。	出かけた希望者は1階に遊びにいたり、散歩で公園の周りを一回りや北野天満宮に出かけている。車を2台使いドライブにもっている。小規模で行われるボランティアのお琴や手品を見に行くことも楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望されている方に関してはお小遣い程度のお金を自身で管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方に関しては自由に使用して頂いている。またその他電話を希望される方においては、フロアの電話の使用がいつでも行えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を行い、館内を安全に移動できるよう安全確保に心がけている。また湿度調整や光・音の調整にも気を配り、こまめに管理している。壁画には季節感を取り入れ、毎月その月にあったものを利用者と共に考え、制作している。	色調は白で木目調、落ち着いた雰囲気をもしだし、利用者と一緒に作った作品や活花など各々のユニットごとに工夫をしてさり気なく飾り付けをしている。行事の写真も掲示し利用者が振り替えれるようにしている。換気は掃除の前に窓を開け、空気清浄機で加湿と空気清浄もしている。家庭に近い生活になるように職員は私服で過ごしている。テレビは利用者の希望でつけたり、DVDや音楽を流している。キッチンから見えるリビングに大・小2台のテーブルを置き利用者同士の関係も大切にしている。またソファで一人になれる場所を作っている。メダカを育てて利用者の気分転換や世話ができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間内の環境配備に努め、思い思いに過ごしていただける様にしている。		

京都府 柏野の郷 グループホーム (さくら)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく馴染みのある家具や写真等の持参をお願いしている。また入居後でも本人や家族と相談しながら、居心地良い空間となる様に努めている。	ベッド、チェスト、空調を設置し、どここの部屋も陽が差すように作られている。馴染みの物は写真や作品人形などで、カーペットを敷いたり洋服掛けや衣装ケースを持ってきて、どここの部屋も入居後1年足らずでそれぞれに、整頓されている。利用者の動線に合わせてベッドやチェストの位置を家族に相談しながら動かすこともある。一人一人が居心地よく過ごせるように気を付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員紹介のボードの設置によって、顔や名前が分かる様にしている。		